

老ノ舟盛等ヲ用ル事也此外種々ノ臺ノ物等又土器ニモ種々ノ肴ヲ盛也土器ニ肴ヲ盛時ハ、土器ニ盛小四方ト云小キ臺ニ載之者也

〔後水尾院當時年中行事正月〕二日○中うけとりのさかづきのついでなり、いつの頃よりの事に
か、其やう、まづ御さかづきに三方一ツに、ひし花びら、こぶ、かちぐり、くしがき、かすのこ、あめ、五辛
等、さまざまの物をとり入て、御前にまゐらす、御はしをとらるゝ、までもなく、むかはるゝ、ばかり
にて、撤して庇におきて、中臈下臈あまたす、みよりて、彼さまざまの物をとり分、ひし花びらの
うへにつみかさねて、女中上中まもにたぶ、次にてうし醴ざけを入れもて參る、三獻參る、くはへ
なし、御さかづき三ツまゐりて、ひとつは次第にとほし、ひとつは勾當ないしにたぶ、

〔嘉永年中行事〕正月二日、朝の物うけとり、略○中

あしたの物うけとり、昨日に同じ、うけとり御盃の序に、先とりそめの御盃供す、其やう、先御盃、次に
三方ひとつに菱花びら、昆布、柏、かち栗、櫛、數の子、あめ、こせう等の、様々の物をとり入て、御前
に供す、只向はせらるゝ、計也、女御へも御前を撤して居ゆ、女中も殘らず給ふ、

〔年中恒例記〕年中御對面、井、雜事少々、略○中

一御取初在之、四方串柿、昆布、勝栗、餅、あめ、たはらこ、□□□參を向はれ候也、御美女調進之、

〔増山の井〕若餅三ヶ日につきたる餅、雜煮雑煮などにつきたる餅、雜煮いはふまめ、ひらきの牛蒡、ふとばし、兩のもの、けらき
也、

〔稅苑日涉〕民間歲節上、正月一日、略○中、炙、養、合、羅、服、牛、蒡、芋、魁、昆布、豆乳等爲羹、謂之雜煮、親戚故

舊來賀者亦進屠蘇酒供雜煮、元日至三日、如之、

〔日次紀事正月〕元日、雜煮今朝、良賤、食、雜煮、又盛、雜煮、并飯、汁於小土器、而供、神佛、又祭籠、井、井、凡今
日、良賤、調味、多用、鰯魚、鯨魚、鰯魚、數子、整海、鹽串、石、決、明、井、牛、蒡、大根等、

〔禮容筆粹〕五雜煮羹、餅、名、歲の始、家毎に煮たる餅をくひ、門戸に松竹を樹、藁の繩を引、皆是吾神國